

studio COOCAへようこそ

(障害者、アート、COOCA)

株式会社 愉快代表取締役

studio COOCA施設長 関根 幹司さん

COOCAは「くーか」と読みます。漢字で書くと「食うか」もしくは「空可」です。

意味は「何して食うか」つまり「どう生きていくか」。生き方を考えていこうとか、常に「空」で、何でも「可」で、すべてを柔軟に受け入れていくことに可能性を見ていこうとか、「色即是空、空即是色」の仏教の教えであり、「無可無不可」の孔子の教えからきていると勝手に考えてください。

ここは障害者と言われる方たちが絵を描いたり、陶芸や、織物等創作活動をしています。

最近、彼らの作品が「障害者アート」と言われます。が、私は、障害者アートなんか無いと思っています。「障害者」はいないと思うからです。障害者といわれる人たちは超個人的なだけです。だからこそ一般制度だけでは生活しにくく、この生活のしにくさが彼らにとっての障害ですが、あくまで制度上の問題で、そのために特殊な制度が必要となり、「その制度を使う必要があると認定された者」がいれば「障害者」です。studio COOCAはこの制度で作られた生活援護施設です。今、便宜上「障害者」の言い方以外ありませんが、ゆくゆくは「超個性認定者」とか「特殊制度利用認定者」とかに代えるべきだと思います。とにかく、「障害者」は、「高齢者」や「配偶者」または「挑戦者」というような、その人の状況を示す言葉であって、そういう人がいるものではありません。だから「配偶者アート」が無いように、「障害者アート」も本来ありえない言葉だと思うのです。



さやか劇場の紙芝居風景・出張公演の依頼大歓迎!



関根 幹司さん

M E S S A G E

福祉や障害者にはまったく関心が無かったが、大学時代、弟のピンチヒッターで渋々仕方なく行ったボランティア活動で出会った障害者の一言が福祉の世界に入ったきっかけです。彼は会の感想を聞かれて、一言「つまんない」といいました。僕は22歳まで建前で生きてきました。その日もいやいや行って、やっぱりつまんなくても、周りが楽しそうだから、楽しそうに振舞っていたのに、「つまんない」と本音を言ったやつがいた。そいつが障害者だった。彼が信頼できた。なぜかすとんと腑に落ちた。それから、ボランティア活動を積極的に否定しようと思ひ、ボランティア活動に参加し始めた。ボランティア先で正職員として引っ張ってくれて福祉の世界に就職した。2009年5月、株式会社愉快studio COOCA設立。既存の福祉のあり方を否定したいと思っています。無事1年が経ちました。みなさまのおかげですありがとうございます。【studio COOCA 連絡先 73-5303】



平塚市平塚、国道1号線沿いのスタジオクーカ

「障害者アート」と言わせる由縁は、彼らの強い個性から来ていますが、ただの「アート」で十分です。強いて言い換えるなら「本来のアート」です。

「アート」とは「人工」という意味です。「芸術」は「芸と術」で、これも人の行為という意味で、「障害者、健常者」の区別はありません。またアートや芸術は「わからない、難しい、苦手」という言い方をしますが、これは学校の点数化される美術教育の明らかな間違いです。自画自賛。美は自分で感じればよいので、わからないことは無いですし、人の不思議さ、自由さがアートなんで、本来点数化できないものをしようとするところに無理があり、「わからない、難しい」物にしてしまうのです。また、「なんとかアート」というようなくくりが、アート本来の意味をゆがめてしまうのではないのでしょうか。ただの「アート」です。

さて、COOCAの人たちも超個人的です。刺激的です。ただただ、楽しく創作しています。ちなみに「創作、創造」は「はじめをつくる」と「キズをつくる」という意味です。創作は「はじめにキズをつくる。」です。簡単です。しかしながら、まっさらなものに傷をつけるのはよほどの覚悟と勇気が要ります。これが簡単で難しい。アートの難しさはここあるのです。そんなことがいとも簡単にできてしまう人たちです。「ただやるだけ」。「迷わず端から線を引く。迷わず色を入れる。画用紙の表にも、裏にも描く。迷わず捨てる。自画自賛する。自画他賛を強要する。決して言葉で説明しない。絵は絵で語る。ただそれだけ。」

そんな彼らが、てぐすね引いてあなたが来るのを待っています。ぶらっと遊びにきてね。